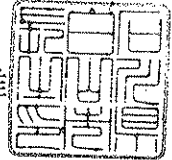




道 第 8 9 号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 宮田 年耕 様

白山市長 角 光雄



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記の件  
につきましては、別紙のとおり提出します。

## 今後の道路政策や道路整備・管理について

白山市長 角 光 雄

白山市は、石川県全域の18%を占める755.17km<sup>2</sup>の面積を有する中核都市として、市民一人一人が市域のいずれに居住していても、安全で安心して暮すことのできるサービスが享受できる施策を構築する必要があります。

平成18年豪雪では、白山ろくの地域で家屋の倒壊や屋根の雪下ろし作業で3人の方が亡くなり、16人が負傷者するなど大きな被害が発生しました。

この年は、例年にない多量の積雪となり道路の除雪能力も限界に達し、1車線分しか除雪できない状況となり、救急車両等の通行にも支障が出たことから、この地域で暮らしていくためには、幅の広い、災害に強い地域を連絡する道路整備が必要であると痛感したところであります。

さらに、今年3月25日に発生した能登半島地震を教訓に、仮に本市において大きな地震が発生し、唯一の白山ろくに通じる道路である国道157号が寸断されるような被害が起きていけば、多くの住民が孤立する恐れがあったと推測されます。

このような事態に備えるためにも、災害に対応するバイパス整備が必要不可欠であると強く認識したところであります。

道路整備は、全国的に満足する状況に達したとする意見もありますが、それは地方の現状を無視した意見だと思えます。

国において道路特定財源の見直しが進められていますが、高速道路料金の値下げなど利用者に還元されていることが、明確化できる政策が打ち出されるべきであり、今後、高齢化する道路ストックの効率的な長寿命化に対処するためにも、道路特定財源の必要制は益々高まるものと考えております。

これから、地方が自立し、自主的に行政を運営していくには、観光資源の活用や、新たな自主財源確保のための企業立地を推進する、高速道路インターチェンジやアクセス道路の整備等が重要と考えており、今後更なるご支援を願うものであります。

### その他個別重点要望項目

- ・地域高規格道路金沢外環状道路（海側幹線）の整備促進
- ・白山インターの整備促進
- ・地域高規格道路小松白川道路（国道360号）の整備促進
- ・国道157号（2車線暫定供用区間の4車線化）の整備促進
- ・加賀海浜道路の建設促進
- ・国道8号の渋滞解消